

福島県は起業する 皆さんを応援します。

移住を考えている皆さん、暮らしの糧をどのように得ていくかは、移住後の生活を安定させるうえで大変重要なことです。

これまでの経験を活かして独立開業したい、また移住を機に新しいビジネスにチャレンジしたいなど、福島県内で起業したいという方を「福島県インキュベーション施設ネットワーク協議会」が応援！！します。

東京から福島県に移住されて、会津若松市北会津町（旧北会津村）でとうふ屋「豆の子」を開業している大塚龍生さんに聞きました。

福島県に移住されたきっかけは

国のイターン促進事業に応募して、福島県金山町に体験に来ました。

その後、独立開業しましたが、とうふに一番大事な「おいしい水」と会津の人々の人柄に惚れて北会津村に店を構えることにしました。

とうふ屋を開業したいと思った理由は

とうふは身体にやさしく健康に良い食品であり、これからも手作り手渡しにこだわった店づくりをしていきたいと考えました。

起業して良かったこと

子供と接する時間が増えました。

また、「本当の『だいず』の味のする安心できるとうふ」を提供することができ、お客様に喜んでいただけることです。

豆の子のHPアドレスは

<http://www.aizu.to/mamenoko/>

茨城の大学を卒業後、いわき市に移住され、古書の買い取り販売などのビジネスを行っている太田史人さんに聞きました。

太田さんといわき市のつながりは

大学の卒業論文で扱った「じゃんがら」と呼ばれる民俗芸能が縁です。

また、古書市場がある東京や実家のある宮城県にも比較的近かったことなどがあります。

いわき産業創造館創業者支援室に入居したのは途中、学問の道もあきらめきれず、大学院に進学もしましたが、仕事に専念しようと決意し、ビジネスの初歩からやりなおす思いで入居しました。

ビジネスにかける思い

地域の人々の語る知識を文字化するのが民俗学、文字化したものを人々に伝えるのが古書業で、人々の知を後世に伝えてゆくという意味で両者は繋がっています。今後は、個人が生きた一生を文字化し、その個人の生を家族や子孫に伝えてゆく仕事ができればと考えています。

じゃんがら堂のHPアドレスは

<http://jangerado.blog105.fc2.com/>

なお、上記起業例インタビューの詳細は下記協議会ホームページに掲載しています。

福島県インキュベーション施設ネットワーク協議会

事務局：福島駅西口インキュベーションルーム

TEL 024-525-4304

URL <http://www.pref.fukushima.jp/industry/biz/fina/index.html>

E-mail fina@incu.jp

福島県内での起業に関する相談や問い合わせは事務局までご連絡ください。

また、各施設の概要は各ホームページをご覧ください

福島県インキュベート施設ネットワーク協議会

福島県内のインキュベート施設と福島県高等教育協議会地域連携推進ネットワークが連携し、全県的な起業支援活動を行っています。

会 員：8団体（インキュベート施設7、支援団体1）

会員施設（所在地）

福島駅西口インキュベートルーム（福島市）

URL <http://incu.jp/>

ゆめサポート南相馬（南相馬市）

URL <http://yume-support.minami-soma.com/>

いわき産業創造館 創業支援室 いわきパイロットオフィス（いわき市）

URL <http://www.iwaki-sansoukan.com/incubate.htm>

いわきインキュベーションルーム（いわき市）

URL http://www.iwaki-liaison.co.jp/inv_5.html

郡山地域テクノポリス ものづくりインキュベーションセンター（郡山市）

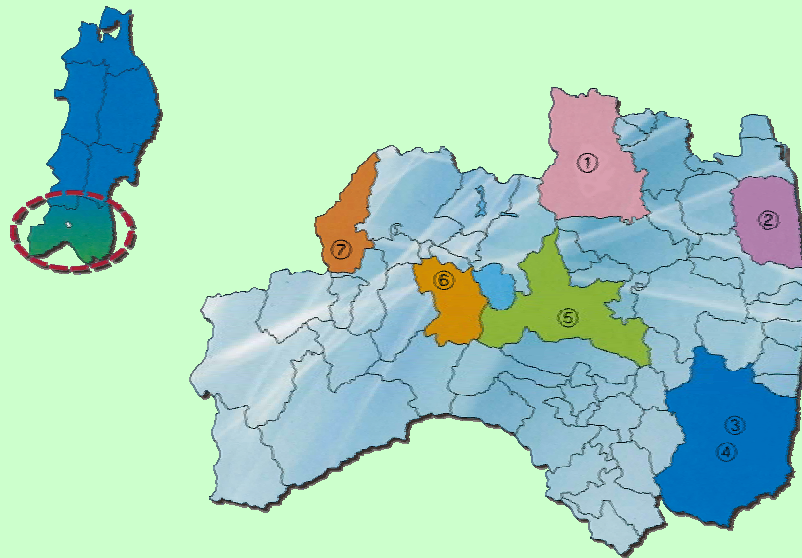
URL <http://www.monodukuri.net6.or.jp/>

会津若松市ビジネスインキュベーションセンター（会津若松市）

URL <http://www.leo.a-vst.jp/index.html>

西会津町テレワークセンター（西会津町）

URL <http://www.nishiaizu-twc.com/>



インキュベート施設とは、

オフィス空間の提供と、インキュベーション・マネージャーによる事業に関する様々なサポートを提供し、ハード・ソフト両面から起業する皆さんを応援する創業支援施設です。

それぞれの施設に設置目的や使命があり、また入居のためには事業計画書の提出や入居審査などそれぞれに手続きがありますので、詳しくは、各ホームページをご覧ください